

令和5年12月25日

西部農林振興センター 邑智農業普及部

標 題	“ガラパゴス化を吹き飛ばせ!” 邑智郡農業士会・郡内青年農業者・郡内就農予定者と浜田地方農業士会との交流研修会を開催「情報意見交換編」
-----	---

(ダイジェスト)

12月5日の午後は、標記交流・研修会の情報意見交換会を行いました。

参加した研修生から「やってみたい農業」、農業士からは「農業士になって良かったと感じた一瞬とは」をテーマに、自己紹介を兼ねた個性的な報告と、邑智郡と浜田地方における「就農支援と産地力強化」の事例報告と質疑応答など、濃い内容となりました。

午前の矢上高校の生徒の視察の後、浜田市金城町の雲城まちづくりセンターに会場を移し、邑智郡からは、農業士会会員の4名、認定新規就農者・研修生3名、浜田地方農業士会会員6名と関係機関団体から10名の参加がありました。

自己紹介では、元パン屋さんの研修生からは「ぶどう生産に加えて、冬期はパンの製造販売により周年雇用をして地域に貢献したい。」などの目標が語られました。

また、邑智郡内の指導農業士からは「**農業士会の活動に参加していなければ、自分自身がガラパゴスになっていた。**」、「**農業士はある意味ボランティアの会だから、悪い人がいないので仲良くなれる。**」など、ふだん聞くことができない『農業士になるメリット』を聞くことができ、関係機関の参加者が大きく頷く場面が見られました。

質疑応答では、関係機関からの「どのように誘われて農業士になったのか。」の問いに、浜田地方農業士会の藤若会長から「まず、農政連に入って周りに認められ、農業士の誘いがあれば受けること。」との浜田地方の農業士育成スキーム情報や、「父が農業士だったので、抵抗なく農業士になった。」という話が多くの農業士から聞かれ、農業士の師弟に農業士が多いことを知りました。



藤若会長から「ゼロからのピオーネ産地作り」等情報を紹介される様子

浜田地方(浜田市・江津市)は邑智郡から近く、今回を機に浜田地方の農家と知り合いになって、個別にでも技術交流を重ねることは可能であり、藤若会長に直接「是非情報収集に行かせてください。」と申し込む研修生も見られました。

浜田地方には、ゼロから産地を作った「金城のピオーネ」、「旭の梨」、「浜田市・江津市の有機野菜」などがあり、就農者育成と産地力強化を進める上で、邑智郡からの参加者には大きな収穫があったと思います。